

死刑について考えてみませんか

街を行くみなさん。死刑の問題については、みなさん一人一人がさまざまな意見をお持ちのことと思います。

わたしたちは毎月一度、たくさんの死刑囚がいる東京拘置所のそばで、「死刑について考えてみませんか」というピラを配ってきました。ピラの裏はアンケート用紙になっています。これまで、何人もの方が記入してくださいました。ありがとうございます。死刑制度については、廃止したほうがよい、条件を整えば廃止したほうがよい、あったほうがよい、という御意見をそれぞれ同じ数くらい受け取っています。

なぜ死刑があるのか、なぜ執行するのか、と問われた法務大臣や法務省の職員の答えはパターンが決まっています。

ひとつは、そう定めた法律があるからだ、という理由であり、もうひとつは世論の多数が死刑を求めているという理由です。

国連の機関から、日本政府はことあるたびに「死刑を廃止していくための努力が足りない」と指摘されてきました。法律があるからだというのは、ここでは理由になりません。どうしてその法律を改めないのかと迫られているのですから。そこで世論調査の結果が持ち出されます。

国民の世論が死刑を求めているのです。

私は世論調査を使って人権の問題を議論するという日本政府の態度に疑問があります。少数者であっても守られねばならないものこそが「人権」ということの核心ではありませんか。

と、こんな議論がなされています。人の生死を多数決で決めるわけにはいきません。

さて、わたしたちのアンケートにしばしば「それでは被害者の人権はどうなるんだ！」という声が寄せられています。犯罪被害者や遺族の方々の人権がないがしろにされている現実もたしかにあります。その生活を支えたり、相談や悩みに応える取り組みも始まっています。そうした運動を担っている方の中には死刑制度に疑問を持つ人も少なくありません。その活動はむしろ「犯人を死刑にすることが被害者・遺族の助けになるのでしょうか」と問いかけているようにも思えます。あなたはどうかどうお考えになりますか？